

秋季県高校野球選手権は第4日の26日、弘前市のはるか夢球場で準決勝2試合を行い、勝った八戸学院光星が2年ぶり、八戸西は初めて秋の東北大会出場を決めた。八学光星は七回に佐藤航太、吉村航成の連続適時打で2点を勝ち越すと、粘る聖愛の反撃をしのぎ1

点差で逃げ切った。八戸西は先発福島蓮が力投、四回まで毎回得点と投打で青森を圧倒した。最終日の27日は同球場で八学光星―八戸西の同地区対決による決勝が行われるほか、残る東北大会出場1枠を懸けて聖愛と青森が対戦する。  
(本紙取材班)

秋季  
県高校野球

第4日

東北切符 光星2年ぶり、八西は初

光星 7回勝ち越し



【聖愛―八学光星】7回裏、八学光星2死二塁、佐藤が中前に適時打を打ち、3と勝ち越し。はるか夢

粘る聖愛を振り切る

【聖】八学光星は3―3で迎えた七回、敵塁で出塁した走者を犠打で進めると、佐藤の中前適時打で勝ち越しに成功。続く吉村の左翼線を破る適時二塁打でリードを広げた。4人目に登板した横山がその後の聖愛の反撃を1点に抑え、しびれる

後半、1点ずつじわじわと追い上げられ、気がつけば3―3。八学光星にとってしんどい展開。そんな窮地を救ったのは、準々決勝の青森山田戦でサヨナラ打を放った1年の佐藤だった。七回二死二塁。「絶対打ってやる」と意気込んで右打席に立った。ファウルで3球粘って迎えた4球目。外野りの直球をコンバクトにはじき返すと、打球はライナーで右中間へと伸びていった。期待に応えられてうれしい。殊勲の一打に、塁上で満面の笑顔を見せた。

頼れる1年 またも殊勲打 光星・佐藤

【ハイライト】 一年の奮起に、2年も応えないわけにはいかない。続く吉村は初球を引く張つて左翼線を破る適時二塁打。守つては4番手として登板した横山が、投げるたびに唾子を飛ばす気迫のこもった投球でリードを死守した。自己最速を1.42秒の直球と、打者の手元でストンと落ちるチェンジアップで見事な火消し役を務めた。 「苦しいゲームを乗り越えたのは一つの財産。（佐藤な） やつてくれたと思つてたし、3番らしくなってきた。横山も最後はよく抑えた」と仲井監督は粘り強く戦ったナインをたたえた。 勝負強い打線、ベンチ入りする7投手による継投、そしてこの日無失策だったそつない守り。「全員で目標を見据え勝利したい」と主将の伊藤。チーム一丸となつて、2年ぶり17度目の頂点をつかみにいく。  
(渡部雅士)

一塁手で長くプレーしてきたが、今年6月ごろから投手に挑戦。実戦経験の浅さが一番で露呈した。